

科目名	機能訓練 2							年度	2026
英語科目名	Function training 2							学期	後期
学科・学年	柔道整復科 3年次	必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	塚本哲也	教員の実務経験		有	実務経験の職種		柔道整復師（介護施設にて勤務経験あり）		

【科目の目的】

リハビリテーションを通じて患者の持つあらゆる障害に対し総合的に対処するための知識と技術を習得することを目的とする。

【科目の概要】

機能訓練指導員として必要な知識を学びます。

【到達目標】

機能訓練指導員とは、日常生活を営むのに必要な機能の減退を防止するための訓練を行う能力を有する者であり、通所介護事業などで利用者への機能訓練を行うことで、能力の維持向上を図ることが活動の主体となる。この科目では、高齢者の身体特性と慢性疾患・既往症・合併症ならびに機能訓練に必要なリハビリテーション知識と装具などの実際について理解することで高齢者福祉に貢献する人材を育成することを目標としている。

【授業の注意点】

国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力
到達目標 A	高齢者の特徴・障害とリハビリテーションについて完全に理解している。	高齢者の特徴・障害とリハビリテーションについて大体理解している。	高齢者の特徴・障害とリハビリテーションについて部分的に理解している。	高齢者の特徴・障害とリハビリテーションについての理解がやや不足している。	高齢者の特徴・障害とリハビリテーションについて理解していない。
到達目標 B	脳卒中の分類・特徴・障害とリハビリテーションについて完全に理解している。	脳卒中の分類・特徴・障害とリハビリテーションについて大体理解している。	脳卒中の分類・特徴・障害とリハビリテーションについて部分的に理解している。	脳卒中の分類・特徴・障害とリハビリテーションについての理解がやや不足している。	脳卒中の分類・特徴・障害とリハビリテーションについて理解していない。
到達目標 C	脊髄損傷、小児疾患、心・呼吸器疾患の概念・評価・リハビリテーションについて完全に理解している。	脊髄損傷、小児疾患、心・呼吸器疾患の概念・評価・リハビリテーションについて大体理解している。	脊髄損傷、小児疾患、心・呼吸器疾患の概念・評価・リハビリテーションについて部分的に理解している。	脊髄損傷、小児疾患、心・呼吸器疾患の概念・評価・リハビリテーションについての理解がやや不足している。	脊髄損傷、小児疾患、心・呼吸器疾患の概念・評価・リハビリテーションについて理解していない。
到達目標 D	介護保険について完全に理解している。	介護保険について大体理解している。	介護保険について部分的に理解している。	介護保険についての理解がやや不足している。	介護保険について理解していない。
到達目標 E	機能訓練指導員としての業務について完全に理解している。	機能訓練指導員としての業務について大体理解している。	機能訓練指導員としての業務について部分的に理解している。	機能訓練指導員としての業務についての理解がやや不足している。	機能訓練指導員としての業務について理解していない。

【教科書】

教科書は「リハビリテーション医学」を持参する。その項目ごとに資料を配布する。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

試験・課題等を総合的に評価する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		機能訓練2			年度	2026
英語表記		Function training 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	高齢者のリハビリテーション①	フレイル・サルコペニア、医療制度や認知症について理解する。	1 フレイル、サルコペニア	高齢者の特徴や評価方法を理解する。	3	
			2 医療制度	寝たきり度や介護保険の判定基準を理解する。		
			3 認知症	日常生活自立度、種類・特徴・対応方法を理解する。		
2	高齢者のリハビリテーション②	高齢者のリハビリテーションの特徴やパーキンソン病について理解する。	1 リハビリの特徴	特徴や問題点を理解する。	3	
			2 パーキンソン病	ヤールの分類もとに特徴について理解する。		
			3 パーキンソン病	アプローチ方法や体操を理解する。		
3	リハビリテーションの実際①	脳卒中の分類・特徴・障害について理解する。	1 分類	脳卒中の分類を理解する。	3	
			2 特徴	同時性障害・統覚性障害を理解する。		
			3 障害	ブルンストロームステージについて理解する。		
4	リハビリテーションの実際②	脳卒中のリハビリテーションについて理解する。	1 急性期	運動障害その他の障害への対応を理解する。	3	
			2 回復期／維持期	理学・作業・言語聴覚各療法と環境整備について理解する。		
			3 病態像	映像を視聴を通して病態像を確認する。		
5	リハビリテーションの実際③	脊髄損傷の病態と評価法・合併症と対策・リハビリについて理解する。	1 病態と評価法	脊髄損傷の機能予後について理解する。	3	
			2 合併症	脊髄損傷の合併症について理解する。		
			3 リハビリテーション	脊髄損傷のリハビリテーションについて理解する。		
6	リハビリテーションの実際④	脳性麻痺・二分脊椎などのリハビリテーションについて理解する。	1 脳性麻痺の特徴	脳性麻痺の特徴について理解する。	3	
			2 二分脊椎の特徴	二分脊椎の特徴について理解する。		
			3 その他の小児疾患	小児に好発する疾患について理解する。		
7	リハビリテーションの実際⑤	整形外科疾患のリハビリテーションについて理解する。	1 腰痛	病態やアプローチについて理解する。	3	
			2 頸肩腕症候群	病態やアプローチについて理解する。		
			3 五十肩／変形性関節症	病態やアプローチについて理解する。		
8	振り返り	後期1回～7回の講義の振り返り。	1 高齢者疾患	分類・特徴・障害・リハビリテーションについて理解する。	3	
			2 脳卒中	分類・特徴・障害・リハビリテーションについて理解する。		
			3 脊髄損傷	分類・特徴・障害・リハビリテーションについて理解する。		
9	リハビリテーションの実際⑥	心疾患・切断・末梢神経損傷のリハビリテーションについて理解する。	1 心疾患	病態やアプローチについて理解する。	3	
			2 切断	切断肢とアプローチについて理解する。		
			3 末梢神経損傷	重症度分類や病態について理解する。		
10	リハビリテーションの実際⑦	呼吸器疾患・関節リウマチのリハビリテーションについて理解する。	1 呼吸器疾患	病態(COPD)やアプローチについて理解する。	3	
			2 関節リウマチ	病態やアプローチについて理解する。		
			3 関節リウマチ体操実演	体操の実演を通してその方法を理解する。		
11	リハビリテーションと福祉①	主に介護保険について理解する。	1 社会福祉法	社会福祉法の対象について理解する。	3	
			2 介護保険制度	介護保険制度について理解する。		
			3 介護保険法	要支援と要介護のサービスについて理解する。		
12	リハビリテーションと福祉②	福祉用具の選定について理解する。	1 福祉用具の選定ポイント	福祉用具の取り扱いについて理解する。	3	
			2 事例紹介	実際に起こり得る福祉用具の活用事例を紹介。		
			3 グループワーク	実際にカタログを使用し事例検討をする。		
13	振り返り	前期1回～13回の講義の振り返り。	1 ICIDH/ICF	国家試験出題傾向を見極めて理解する。	3	
			2 障害学、治療学	国家試験出題傾向を見極めて理解する。		
			3 リハビリ治療技術	国家試験出題傾向を見極めて理解する。		
14	振り返り	後期1回～13回の講義の振り返り。	1 高齢者の特徴	国家試験出題傾向を見極めて理解する。	3	
			2 脳卒中	国家試験出題傾向を見極めて理解する。		
			3 脊髄損傷	国家試験出題傾向を見極めて理解する。		
15	リハビリテーション医学のまとめ	前・後期で特に重点を置いたポイントを振り返り、知識の幅広い習得を行う。	1 1年を振り返って	難易度を上げた問題を解く。	3	
			2 機能訓練指導員として	教科書『柔道整復師と機能訓練指導』からの知識を確認する。		
			3 ICFの応用	ICFの考え方や活用方法を再確認する。		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等